

只見線の切符を小学生にプレゼント



▲「只見線応援切符セット」を目黒町長に手渡す松本忠さん(左)



▲切符は子ども用と保護者用で絵が違います

11月28日、鉄道風景画家の松本忠さんが只見町役場を訪れました。松本さんは10月に只見町（季の郷湯ら里）と金山町（道の駅 奥会津かねやま）で「只見線応援展」を開催され、その作品の売り上げ金で只見駅—会津川口駅間の切符を購入。その切符に松本さんの只見線の鉄道風景画を一緒にした「只見線応援切符セット」を制作され目黒町長へ渡されました。この切符セットは只見町・金山町の小学生全員にプレゼントされ、切符は子どもとその保護者の方が乗れるように2枚セットとなつています。

切符を受けとった皆さまには、この機会に只見線について考え、ぜひ切符を利用して親子で一度代行バスに乗って頂ければと思います。

交通安全表彰を受賞



▲賞状を持つ小林聖佳さんと盾を持つ高階涼矢君

12月4日、南会津警察署で只見小学校などが交通安全表彰を受け、11日に只見小学校の二瓶校長先生と交通安全少年団を代表して高階涼矢君と小林聖佳さんが受賞報告に目黒町長を訪れました。

交通安全少年団は只見小学校の5・6年生全員が参加し、夏休み期間にドライバーに交通安全を呼びかけるテント村や、交通安全パレードなどを行っており、長年取り組んできたこれらの活動が認められ今回表彰を受けました。

平成26年度 交通安全表彰者

- 東北管区警察局長 東北交通安全協会長連盟表彰 只見小学校
- 全国交通安全協会交通荣誉賞 「緑十字銅賞」表彰 大塚純一郎さん

新庁舎基本設計の住民説明会を開催



▲只見振興センターでの説明会のようす

12月3～5日、3振興センターを会場に役場新庁舎基本設計についての住民説明会を行いました。

基本設計説明後に意見交換を行い、参加者からは庁舎の雪対策や、再生可能エネルギーの取組み、町民の庁舎活用についてなど多くの意見を頂きました。

現在、役場新庁舎建設事業は実施設計業務を行っており、平成27年度に本体建築工事を発注できるよう業務を進めています。

「ふるさと只見の集い」

只見ユネスコエコパーク登録証を授与

11月30日、東京都スクワール麹町で「ふるさと只見の集い」が開催されました。ふるさと只見会は、只見町出身者や同町に縁のある方々が会員となっており、ふるさとである只見町を様々な形で支援し、会員同士の親睦を図られています。この日は年に一度の総会が行われ、その中で日本ユネスコ国内委員会主査（横浜国立大学長）鈴木邦雄氏よりユネスコエコパーク登録証を授与していただきました。鈴木氏は挨拶で、只見町に受け継がれてき



▲授与されたユネスコエコパーク登録証



▲授与式後の記念講演のようす

圏保存地域（日本呼称…ユネスコエコパーク）に登録されたことを紹介され、支援の一つとしてのふるさと納税の可能性や、今後の只見町の取り組みを激励されました。

その後、只見町の職員よりユネスコエコパーク制度の簡単な説明や、只見町の自然と共生する暮らしの素晴らしさ、その魅力ある自然や文化を今後どのように活用していくのか、ユネスコエコパークに登録されたこれからの只見町が描く未来について講演しました。

参加された方々は、世界に認められたふるさと只見の思い出を話し合い、喜ばれているようでした。お昼からの懇親会では、新しくふるさと只見会に入会された方々の紹介や、今後の只見町、ふるさと只見会の発展を話しながら、親睦を深められました。

た貴重で豊かな自然環境や伝統的な生活・文化が「人と自然との共生のモデル地域」として国際的に評価され、本年6月12日にユネスコの人間と生物圏（MAB）計画の、生物

只見町公認自然ガイド

フォローアップ研修を実施！

只見町は、自然環境と地域資源を抛り所にした地域の活性化を図るため、ガイドの活動を通じて町内固有の自然や生活・文化を紹介、解説する「只見町公認自然ガイド（以下、ガイド）」制度があり、現在、合計16名の方が認定されています。

10月下旬～11月上旬、只見町ブナセンターの主催で、ガイドの知識や技術向上のためのフォローアップ研修として、現地研修および座学研修を実施しました。現地研修では、梁取地区の学びの森ブナ二次林において森林調査の方法、大曾根湿原においては乾燥化が進んでいる湿原の状況や教育委員会が進めている只見町の過去の植生を知るための調査などについて学びました。また、座学研修では、「鳥類の行動と生態」および「植物生理生態学―光の利用と成長様式―」について学びました。



▲現地研修のようす



▲座学研修のようす